

桜蔭会便り

発行 一般社団法人桜蔭会

🌸高崎みどり会長 報告

総会も無事終わり、桜蔭会としての新年度が始まったのをきっかけとして、桜蔭会の活動をより詳しくご報告していきたいと思えます。特に、会が出している奨学金に関しては、現今のコロナ禍で簡略化されがちな式典や受賞者とのコミュニケーションを補完すべく、その都度ご報告いたします。

1、令和3年度“みがかずば”奨学金授与式（5月25日12:30～13:10 Zoom開催）

この“みがかずば”奨学金は、予約型奨学金で、お茶の水女子大学に入学前に申請し、入学後の1年次2年次に受給するもので、毎年20名に60万円ずつ（1年あたり30万円）が授与されるものです。学部生成績優秀者奨学金授与式と合同で行われ、学長挨拶の後、大学の後援会会長と桜蔭会会長が来賓として挨拶しました。私からは、「みがかずば」の校歌の由来を簡単に説明し、この奨学金が桜蔭会の先輩たちの後輩たちへの励ましという意味をもっており、是非成長の糧として頂きたい、という趣旨のご挨拶をいたしました。受賞者代表からも御礼の挨拶があり、このコロナ禍のもとで、大変困難な勉学状況ではあるが、しっかり勉強し充実した学生生活に努めたい、と元気に明るく語っていらしたので、こちらの方が元気づけられる思いでした。

2、令和3年度桜蔭会研究奨励賞奨学金授与式（5月26日12:30～13:10 Zoom開催）

この桜蔭会研究奨励賞奨学金も、予約型奨学金で、お茶の水女子大学大学院に進学前に申請し、入学後の1年次2年次に受給するもので、毎年20名に20万円ずつ（1年あたり10万円）が授与されます。アバナード・KSP-SP・博士後期課程研究奨励賞・錦織チサエ各奨学金授与式と合同で行われ、学長挨拶の後、株式会社KSP-SP代表取締役社長と桜蔭会会長が来賓として挨拶しました。私からは、分野はそれぞれ異なっているけれども、皆さんの研究には、これからの日本の社会やコロナ後の世界を少しでも良い方向に向けていくような何かがあるとあるので、先輩たちが応援して見守っていますよ、という趣旨のご挨拶をいたしました。受賞者代表からは、御礼の言葉とともに、非常に興味深い研究内容の説明もあり、困難な情勢の中でも母校では引き続きレベルの高い研究が行われており、その一助となることを嬉しく感じたことでした。

3、連絡協議会における話し合い：「桜蔭会とIT化」についての報告

総会でも会の定款24条が改定され、電子メールでの議決権行使が可能となり、また本部内の大小さまざまな会議、大学との打ち合わせや上記のような式典等々もIT化・ICT化が進んでおります。こうした流れが支部の方にも及んでいることが連絡協議会における報告や話し合いで実感されました。また桜蔭塾開塾記念講演アンケートによせられた声も、リモート方式の恩恵をまざまざと感じさせたものが多く、この流れはコロナ後も継続することと思っております。